

羽田八幡宮文庫旧蔵資料に天皇の真筆

後奈良天皇・後陽成天皇の宸翰^{しんかん}を本物と確認！

【はじめに】

豊橋市図書館では、昨年11月、羽田八幡宮文庫旧蔵資料（羽田八幡宮所蔵）のなかに織田信長、豊臣秀吉などの書翰と後奈良天皇などの宸翰の計8点の存在を確認し、筆跡や花押・朱印の形態などから、信長などの書翰5点は本物であることを発表しました。前回発表時には、天皇の宸翰3点については調査継続中でしたが、このたび調査結果が報告され、後奈良天皇、後陽成天皇の宸翰は本物と確認しましたので発表いたします。なお後二条天皇の宸翰につきましては料紙、筆跡等から鎌倉後期のものと考えられますが、現存する資料が皆無に近く、真筆であれば大変に貴重なものですが、残念ながら現時点では断定までには至りませんでした。詳細は3月5日の説明会で調査を行った上島享教授（京都大学大学院文学研究科）が説明いたします。

【今回調査結果が出た資料】

- ①後奈良天皇宸翰・二首懐紙
- ②後陽成天皇宸翰・花鳥風月
- ③（伝）後二条天皇宸翰・歌切



後奈良天皇宸翰



後陽成天皇宸翰



（伝）後二条天皇宸翰

【資料の来歴】

これら宸翰のうち、後陽成天皇と（伝）後二条天皇のものは吉田藩家老の和田元長が文庫に奉納したものです。後奈良天皇宸翰は来歴がわかっていません。元は吉田藩のNo.2である家老の所有で、文庫に奉納して未永く残したいという思いがあったようです。

【資料の評価】

これら資料の3点は、料紙、書とも風格があり、名品といえるものです。地方に天皇の名品があるのは極めて珍しいといえます。江戸時代の私設文庫が天皇宸翰を所蔵している例はなく、羽田八幡宮文庫は庶民だけではなく吉田藩士からも信望されていて、地域に根ざした文庫として特徴的で価値があると言えます。

○報道機関対象説明会 ※3点の資料を展示、撮影できます（申込み不要）

日時：令和2年3月5日（木）午後2時から

場所：豊橋市中央図書館 3階会議室